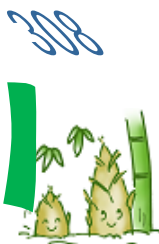




若竹だより



運営基本理念

報四恩

父母の恩・社会の恩

郷土の恩・大自然の恩

【私たちの願い】 ①よろこんで与える人間となろう ②いのちを大切にする人間となろう
③こころ静かに考える人間となろう ④使命に生きる人間となろう ⑤規律ある幸せ喜ぶ人間となろう

法人の社会貢献事業 ①四国八十八カ所巡礼者無料宿泊&お接待 ②講演会・シンポジウム等

【巻頭言】

成長の機会

園長 宮竹 恒

実りの秋、子どもたちも様々な機会を得て成長をしています。

初めて参加したダンスフェスティバルは、子どもたちにとって大きな成長の機会でした。何より、大きな目標を持ったことで自主練習をし、互いに声を掛け合って励まし合っている姿に成長を感じました。

また、被災時調理体験を通して、中学 3 年生の男児は、「夜、職員が 2 人の時に職員が怪我をして動けなかったらどうしたら良いか？」と職員に聞き、災害時のことを真剣に考えようとするがありました。防災訓練の中にも、成長の機会があることを子どもの言葉から気づかされました。

青年療法士まちづくり塾の方と交流した際、子どもたちは、どうやったら太鼓の叩き方を伝えられるか自分たちで考えて、取り組んでいました。その姿を見て、日ごろ御指導いただいている「満天太鼓」様の教え方を自然と学び成長していたことが良く分かりました。

活動を通して、また普段の生活を通して、成長する機会は多々あります。しかし、子ども自身は、自分が大きく成長していることに意外と気づかず過ごしていることが多いように思います。子どもたちの心の成長を促す為、「気づいて」、「伝え」、「分かち合う」支援を心掛けていきたいと考えています。一了一

『青年療法士まちづくり塾』来園

10 月 27 日 (日)、昨年も来園して頂いた、青年療法士まちづくり塾 (理学療法士・作業療法士) の方が来園され、子ども達と交流しました。今年は、ボランティアとして、穴吹リハビリテーションカレッジの学生さん 13 名も参加されました。

最初は、全員でドッジボールを行いました。子どもたちは、思い切り楽しんだ様子でした。その後、太鼓グループとヤギグループに分かれて活動しました。太鼓グループでは、若竹太鼓の披露の後、子どもたちがボランティアの方々と一緒に太鼓を叩きました。子どもたちは、ボランティアの方に積極的に太鼓の叩き方を教えていました。ヤギグループでは、子どもたちがボランティアの方と一緒に、餌やりや散歩を行い、楽しくヤギと触れ合う時間を過ごしました。

11 月には、理学療法士の方が勤務されているデイサービスセンターへ太鼓慰問を予定しており、子どもたちも楽しみにしています。



青峰・若竹学級だよ

中間テスト&診断テスト



中学生は9月26日(木)～28日(金)の2日間、5教科のテストを実施しました。わからない問題にも粘り強く最後まで集中して取り組み、日ごろの学習の成果を発揮できました。また、3年生は10月10日(木)第3回学習の診断がありました。それぞれ希望の進路に向けて日々努力した成果を発揮しようと頑張っていました。

放課後の補習

中学校3年生は、放課後に再登校し学習に取り組んでいます。高校入試に向けた補充学習や学習の診断の過去問などを中心に学習しています。生徒は全員進学希望ということもあって、意欲的に学習に取り組んでいます。

中学校の英語の授業

通常の学年ごとの授業のほかに、「特別英語」として週に2時間、学年を超えた2グループに分けて、英語に慣れ親しみ、基礎力の向上を目的とした授業を行っています。英語の基礎、リスニング、構文や文法などに特化して、それぞれの習熟度や特性に応じた授業をしています。

校外学習(小学校)

小学生は校外学習として9月26日に香川用水資料館と香川プラザに出かけました。

香川用水資料館では、展示物の見学や担



当の方の説明を聞くことを通して、香川では昔から水の確保に苦勞していたことや、先人の様々な知恵や工夫で今日の生活が成り立っていることなどを学びました。あらためて水の大切さを学び、日々の生活に生かしていこうと感じていました。

坐禅に取り組みました



理事長先生にお願いして、喝破道場の坐禅堂を借りて本格的な坐禅に取り組んでいます。以前から継続して取り組んでいる坐禅ですが、本年度はなかなか時間が取れず、今回の坐禅が2学期の1回目となりました。

どの子どもも「何も考えない時間」を体験しようと真剣に取り組んでいます。始める前に「なんでこんなことせないかんの？」などと言っていた子どもも、坐禅が始まると静かに座り、自分の呼吸に意識を集中しようと頑張っていました。終わった後は、すっきりした表情で坐禅堂を後にしていました。

野外ダンスフェス「LEVEL UP」



子どもたちの希望から始まったダンスの練習も 4 ヶ月がたちました。ダンスの先生からイベントに参加しないかと勧められ、とても大きな挑戦をすることになりました。本番までの限られたレッスンで必死に振りを覚え何度も繰り返し踊りました。レッスンが無い日も自主的に集まって振りを教え合い確認することで仲間同士の絆も芽生えたように感じます。

当日の子どもたちは、発表の順番が近付いてくるにつれ緊張と不安な気持ちでいっぱいでしたが、いざ舞台に立ち音楽が流れてくると自然に体が動き練習の成果を発揮することができました。



ダンスに参加しない子どもたちも大きな声で応援していました。またクレープ屋を開設し、大きな声でお客さんを呼び込んだり、購入していただいたお客さんに感謝の言葉を伝えたりと、会場を盛り上げていました。

どの子どもにとっても、学園内では経験できない貴重な一日になったと思います。



命を守るため 防災総合訓練



学園では 10 月 21 日に、防災総合訓練を行いました。内容は厨房から出火し庭に避難する想定での、通報訓練・避難訓練・消火訓練です。

色々な場所にいる子ども達、大人がどのように放送を聞き、安全な場所に集まれるかを訓練しました。子ども達には、日ごろから早く逃げることもより落ち着いて怪我をしないように避難することを伝えていきます。

水消火器を使った訓練では栓を抜いてからどのように消火器を持つか知らない子どももいました。

繰り返し訓練を行っていると、その都度、子ども達に危機意識を持って参加させることが難しくなってきます。興味関心を持てる訓練を考え継続して行っていこうと思います。



電気・水道 STOP さあどうする？

9月27日に避難訓練の一環として電気も水道も使用できない状況での被災時調理体験をしました。計画している献立の中華丼とサバ缶を、班ごとに



備蓄食料を使用して作りました。班のリーダーが中心

になり、それぞれが分担し役割を持ち協力し合うのが目的です。

まずガスコンロを使い鍋に、ペットボトルの水を入れ沸かしました。ご飯と中華丼を鍋に入れるとポッカリ上に浮き上がり、上手に温めることができませんでした。しかし子どもたちなりに工夫をして、サバ缶を上から重石として使い上手く温めることができました。出来上がったご飯に中華丼をかけサバ缶と一緒にいただきました。とてもレトルトとは思えないほど美味しくいただきました。サバ缶



も重石に使ったお陰で温まりおいしくいただきました。おかわりを希望する子どももいましたが、残念ながら限られた非常食なのでありませんでした。

これからも時々このような体験をする事によりいざと言う時に慌てないためにも訓練を重ねていく必要があると思いました。また少しでもボリュームのある献立に見直していきたいと思いました。

10月行事

6日	ダンス発表会
13日	図書館
18日	学校連絡会
21日	防災総合訓練
24日	買物学習
29日	調理実習

在籍人数 令和元年 11月1日現在

区 分		県内 (人)	県外 (人)	合計 (人)
男 子	小学生	5	1	6
	中学生	7	1	8
	計	12	2	14
女 子	小学生	4	0	4
	中学生	4	1	5
	計	8	1	9
合計		20	3	23

編集後記

全国の大雨・台風で沢山の被害を受けたというニュースが流れるたびに、子ども達をどのように守れるのかの防災危機意識が高まります。

学園では防災食と一緒に作り昼食として食べました。大人だけでなく、子どもも含めて全体で防災について考え準備をする事が今求められているのだと思います。

植松 圭吾

第308発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192

TEL 087-882-1000 FAX 087-882-1160

ホームページ <http://4on.or.jp>

Eメール wakatake@4on.or.jp

編集兼発行者 若竹学園 編集委員

発行責任者 宮竹 恒